

国鉄改革完遂！ 当たり前労働運動を 前進させよう！ JR 東海労に 結集しよう！	J R 東海労	静岡	J R 東海労働組合静岡地方本部 〒420-0851 静岡市葵区黒金町 68 番地 N T T 054-284-3608 発行責任者： 半場弘恭 2024 年 9 月 14 日 No. 5
--	------------	----	---

静岡県リニア工事差止訴訟第 15 回口頭弁論に参加

南アルプストンネルの 湧き水対策本当に疑問！

地本は 9 月 13 日、第 15 回口頭弁論に参加してきました。今回は、原告が岐阜県瑞浪市でリニア建設工事が原因とみられる井戸の水位の低下が起きたことを引き合いに出し、JR 東海の湧水対策に「はなはだ疑問だ」と批判しました。弁護団は、裁判後静岡県知事に要請書を提出してきました。

9 月 14 日には、静岡県がリニア中央新幹線南アルプストンネル工事を巡り、今月 17 日にもこの間静岡県が許可をしていなかった「県内ボーリング調査を容認したことを 17 日にも JR 東海に伝えることが分かった」と新聞報道されました。「湧水の県外流出は JR 東海の対策で払拭されるとの判断をした」県境 300 メートル手前から静岡県側へのボーリング調査をすることになります。

しかし、この間の静岡県のリニア出前講座では、静岡県の赤石山脈の地下には複雑な破碎帯があることが説明されています。また、地層は県境で分れているのではなく地下で地核変動により県境の地下に入り組んで複雑に成りたっています。赤石山岳や周りの山は毎年役 4 mm 隆起し毎年変化しています。たとえ調査のボーリングであっても地質構造での水の流れが変わることは容易に想像できます。

岐阜県の井戸やため池の水が低下し、JR 東海は工事を中断していました。また、長野県の大鹿村でも井戸水や沢の水位の低下、牧場の池の水が無くなり沿線住民と産業に大きな影響を与えています。先進ボーリングは、本坑掘削のために堰を切ることになり水位の低下による動植物の生態系や山岳崩壊の自然破壊を招くことになります。

JR 東海は先進ボーリング調査をやめるべきです！

次回第 16 回口頭弁論は 12 月 13 日（金）です。